

一九七七年以前出土の木簡(二九)

奈良・平城京跡右京一条二坊一坪

へいじょうきょう

- 1 所在地 奈良市二条町
- 2 調査期間 一九七二年(昭47)十一月～十二月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 坪井清足
- 5 遺跡の種類 都城跡



(奈良)

- 6 遺跡の年代 古代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

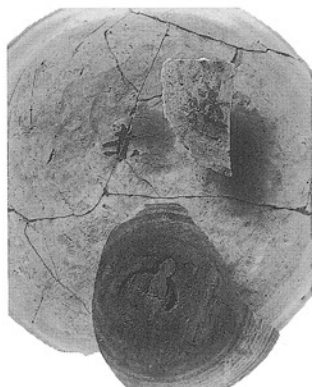
この調査は、県営住宅建設に伴うもので、調査地は、平城京の条坊復元では右京一条二坊一坪にあたる。調査区は、六m×七五mの南北トレンチと、それに直交

する六m×二五mの東西トレンチからなり、調査面積は約六〇〇㎡である。

検出した遺構は、奈良時代以前、奈良時代、及び奈良時代以後の三期に大別される。ただ、奈良時代以前及び以後の遺構は、遺構の重複関係によるもので、いずれも時期を決める遺物は出土していない。

奈良時代の主な遺構は、東西棟建物の西妻部分、溝三条、土坑三基、井戸一基で、木簡は、南北・東西のトレンチが交差する付近で検出した井戸SE八一〇の下層から一点出土した。

井戸SE八一〇は、一辺約四m深さ二mの方形の掘形をもち、井戸枠は残存しない。井戸の堆積土は大きく上下二層に分かれ、上層からは、平安時代の黒色土器、須恵器甕などが出土し、下層からは、奈良時代末頃の土器、宝亀・延暦年間の



墨書土器集合

(七七〇―八〇六)頃の軒平瓦、緑釉の火舎の脚部などのほか、「□継」(須恵器杯または皿底外)、「下」(須恵器杯AⅢ底外)、「赤」(土師器皿AⅠ底外)と記された墨書土器が出土した。上層の遺物から、井戸は、平城京廃絶後しばらくして埋没したものと推測される。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「○□水船四枚切机四前中取一前 174×20×3 011

上端・右辺は削り、下端は二次的切断、左辺は二次的削りか。船は槽に通じることから(和名抄)、「水船」は水槽のことであろう。「切机」は俎、「中取」は中取机(案)のことで、脚のついた机である。厨房用具・食膳具の類の品名と数量が列挙された木簡であるが、用途は不詳。

9 関係文献

奈良文化財研究所『平城宮発掘調査出土木簡概報』三八(二〇〇七年)



(山本 崇)

奈良・本薬師寺跡

もとやくしじ

- 1 所在地 奈良県橿原市城殿町
- 2 調査期間 一九七六年(昭和51)一月～二月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 工藤圭章
- 5 遺跡の種類 寺院関連遺跡
- 6 遺跡の年代 飛鳥時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

市営住宅への進入路新設に伴う事前調査で、調査地は本薬師寺の西南隅部にあたる。発掘面積は四五〇㎡。主な検出遺構は、藤原京



(吉野山)

八条大路・西三坊大路などである。

八条大路は溝心々間距離一五・九m、路面幅一四・〇m、西三坊大路は溝心々間距離一五・二m、路面幅一四・一mであり、両大路の交差点では、西三坊大路の東側溝SD一〇五の上に